

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		KOKO響		公表日 令和7年2月14日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		小上がり、ベッド二台、個室があり利用者さんに合わせたスペースの確保が出来ている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6			職員の配置数は、基準以上になっているが、サービスの質の向上のため、人員募集を行っている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		1フロアですべて把握できる環境となっており、段差もなくバギーのまま入室可。出入口も両開きになっているので、スムーズに出入りができる。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		広く明るく見えるよう、整理整頓を心掛けている。普段から清潔を保つよう、毎日の掃除、使用したものを洗濯してい	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		ベッド周りにはカーテンを設置し、個別の部屋を作れる場所が設けられている為、利用者様にあった環境を整えられる。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	定期的にはミーティング等を行ってはいないが、その都度、共有を行っている。	今後は定期的にミーティング等も実施し情報共有だけでなく意見交換ができるように場を設けていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	保護者様アンケート集計後にミーティングを行い、業務改善に向けた話し合いを行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			個別では行えているが、全体としては行えていないため、今後はミーティングなど、職員が集まって意見交換ができる場を設けていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1	第三者機関による評価は行っていない。	外部のコンサルティングに委託し、月に一人一回は面談を行っている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		各専門職において、他の機関が主催して行っている連携研修などに参加を促している。勤務内での研修を可能として、積極的に研修を受けられる体制を作っている。	全体としての勉強会・個々の研鑽が必要だと思う。来年度は、大学などと連携をしながら、障害理解・支援について研修を行ってきたい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	1	ホームページにより公表を行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		サポートブックの提供と、日頃の送迎時に話を聞きながら、計画書を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		全職員で意見を出し合い、共有・理解した上で、アセスメントし検討が行われている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		個別記録と一緒に管理されており、どのような支援を行うか全職員がわかるようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		5項目に対応したアセスメント表（モニタリング表）に書式変更を行った。項目ごとにアセスメントを行い、経過が見えやすくなるように工夫している。	サポートブックの見直し、更新を行ってきたい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		設定されている。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		日々の活動や、季節の行事等を話し合い、利用者さん楽しめるように工夫している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		「音楽活動」「絵本の読み聞かせ」「感覚遊び」「戸外活動」「ゲーム」「リラクゼーション」「創作活動」それぞれに関連する活動を行っている。季節も行事や誕生日会、近隣でのイベントなどにも参加し固定化しないようにしている。	日々の連絡ノートや送迎時に保護者さんへお伝えをしているが、事前のお知らせは少ないため、行事、イベントなどを行う際は情報共有、提供ができるようにしていきたい
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		平日は個別の活動になる事が多いが、長期休みや休日などは集団活動も行っている。	療育活動にも力を入れていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	職員の退勤時間や送迎の戻り時間も違うため、全員集まっただけの打ち合わせはできていない。気付いたことや保護者様からの申し送りなどは、共有の連絡ノートを通して周知、共有を行っている。漏れないように、都度声掛けをし、情報共有をしていく。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	1	記録の書き方については職員間で周知している。日々の支援内容は記入できてはいるが、支援の検証はできていない。	支援の検証・改善が考えられるような記入方法の研修などが必要と考える。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		各専門職の立場からも意見を出し合い、定期的にモニタリングを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		土曜日や祝日などは活動する機会を設けており、近くの公園へ行き、保育園主催の行事に参加したり、図書館での読み聞かせ会に参加したり、PT、OTによる訓練の実施。	利用者それぞれの課題についてもっと共有し、成長発達に向けての支援を
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		選択肢を二択にし、「はい・いいえ」「右・左」など選択しやすいようにしている。その判断をするには日頃からコミュニケーションをとり、観察力をつけていく必要がある。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	会議前後に職員間で情報共有をし、質問やわからないことがあれば参加しないスタッフにも、他機関や保護者さんとの連携が取れるように工夫している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2	それぞれの主治医から指示書を記載していただき、医療的ケアを行っている。緊急時の連絡先などの確認はできているが、関係性はできていないため、連携が取れるよう関係性を築いていきたい。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		保護者さんや学校、社内の他事業所との連携を行い、共有している。連絡がいつでもできるように、送迎時や外出時なども常時業務社用携帯をもっている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		移行が必要な利用者さんが在籍していないが必要に応じて情報共有を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1	必要に応じて情報提供している。	中学生や高校生の在籍が増え、生活介護などの問い合わせが増えてきているため、情報提供ができるよう努めていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1	研修を受ける機会はないが、必要時に助言を受けることはある。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	土曜日や祝日などは活動する機会を設けており、近くの公園へ行き、保育園主催の行事に参加したり、図書館での読み聞かせ会に参加したりしている。今後もイベント情報を収集し、計画していきたい。	

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2	交流会などにも参加している。	最近は、参加していないことも多いため、都合がつけば参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	2	連絡帳や送迎時に情報交換を行い問題の共有をしている。全スタッフが共通理解をもてるよう、継続して連絡ノート(共有ノート)等で情報共有していく。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		出来ることが増えたり、いつも違う表情が見られた時の詳しい状況など、事業所での様子をお伝えしたり、家庭での様子を聞き、情報の共有、提供を行っている。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		利用開始時に児童発達支援管理責任者より説明を行っている。また、いつでも閲覧できるように出入口に説明用ファイルを常備している。変更がある場合には、適宜文書の配布等でお知らせし、質問の受付を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		時間を設けて話をする機会はないが、送迎時やイベント参加時に状況や、意向などを聞いている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		担当者が丁寧に説明をし、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		送迎時にコミュニケーションを図り、悩みの相談や、ご家庭での様子、成長に伴う変更点、食事の援助方法など傾聴し、内容に沿った助言を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2	イベントや地域での行事等、家族で参加できる情報共有をし、保護者様同士で交流できる機会を設けている。	今後は土、日、祝に家族様参観日や事業所見学など、交流を深める機会を増やしていきたいと考える。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情や意見があった場合は、速やかに連絡ノートや口頭で周知し、改善に努めていけるようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		会報等の発行を行い、活動内容の報告、外出の許可等を受け行事を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		機密保持に関する誓約を職員と結んでいる。また、写真、名前の掲示については、保護者の許可を得て行っている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		児童さんとは視線や表情での伝達等をコミュニケーションの中で活用している。保護者様とは連絡帳や、送迎時にコミュニケーションをとり、口頭で情報伝達を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2	事業所の行事に招待することはないが、地域の行事に参加したり、事業所を知って頂くこと、戸外の季節イベントやコンサートに参加し、交流を行っている。参加する際には、保護者様に連絡し調整を行いながら実施している。	事業所での行事については今後の課題としていく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		すべてのマニュアルを作成している。感染症流行の時期には、保護者様との連絡、連携を密にしている。新人スタッフが入職した際にも、すぐマニュアルを確認できるよう、全スタッフがマニュアルの保管場所を把握しておく。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	1	行っている。定期的に行えるようにしている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		確認はしているが、非常時には混乱等を考慮し、サポートブック、一日のスケジュール(服薬の種類、時間、注意点等記載)をまとめて持ち出しし、二重チェックができるように対策している。	

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		されている。更にサポートブック、一日のスケジュール（服薬の種類、時間、注意点等記載）にて二重がチェックできるようにしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		研修や訓練を実施最中である。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		都度、責任者と連携し、迅速に対応し、保護者様に連絡、連携を図っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1	インシデント・ヒヤリハットについては、速やかに報告書を記載し、連絡ノート等で周知したうえでミーティングなどで対策を考え共有している。事故発生の経緯を保護者に誠意をもってお伝えし、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待研修の動画視聴をし、不適切支援についてミーティングを行い、職員の意識を高めている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		身体拘束などが必要と思われる場合は、個別支援計画書にその旨と注意点を記載し、保護者様にも説明し了承を得て行っている。普段の様子を観察し決定する際は保護者様と相談、連携を図っていく。	